

## ○日本の財政、金融の課題

コロナに続き、ウクライナ情勢が、世界に及ぼす影響が広がっています。この先、世界の枠組みが大きく変わる可能性が指摘されています。日本の財政、金融の課題も、これまでの構図が変わってきたように思います。

一点目は、ロシアに対する経済制裁の影響です。原油をはじめとするエネルギーや輸入物資の価額が、大きく上昇しています。二点目は、アメリカが極端なインフレを抑えるために、金融の引き締めをして、金利を上げ始めています。三点目は、安い円で高い燃料を買わなければならないことから、日本の経常収支が赤字に落ち込み始めています。

こうした状況下でも、日銀の黒田総裁は、たとえアメリカや他の国々が政策を切り替えて、金利を上げる決断をしても、日本は、今まで通り金利を低く抑え続けていくと言います。安い金利の円で資金調達をして、金利が上がり始めている海外に投資資金が流れると、円はますます売られて円安が進み、国内物価は上がり、経常収支の赤字が市場の円に対する信認を崩して、円売りドル買いを誘発して、円安スパイラルに落ち込むことが懸念されています。

## ○日本銀行の苦悩

国会の財務金融委員会での議論を通じて、私は、日本銀行は、世界の潮流に合わせて金利を上げる方向で調整すべきだと言っています。一方で、日本銀行の苦悩も透けて見えます。

これまで 500 兆円を超える国債を買い入れてきたことから、金利を上げれば、この価値が目減りして、日本銀行そのものが債務超過（破綻状態）に陥る可能性がある。同時に、政府の莫大な借金の金利があがれば、国の財政そのものが破綻する可能性がある。だから、少しでも、政策変更の意思を見せた途端に市場が過剰反応して、日銀が制御できないほどの極端な金利の上昇を誘発することを避けなければならない。危機感を抱きながら、日銀は、その場に、立ち往生しているのではないかと思います。

ここ 10 年余の「アベノミクス」の副作用と後遺症が、ウクライナを契機に一挙に顕在化してきています。

日銀が自分の手足を縛られたまま、経済、財政政策が動かなければ、日本の破綻リスクは高まります。

## ○大統領就任式、日韓議連で訪韓

四万人の観衆と、テレビの実況中継を前に、尹錫悦大統領の情熱的な演説でした。様々な課題を抱えながらも、韓国が政権交代によって、ダイナミックに政策転換をしていくその予兆を、尹大統領の演説に感じ取りました。

翌日には、日韓議連を中心にした訪韓団で尹大統領を表敬しました。「日本からは、林外務大臣や鳩山元総理など、この機会に破格の懇談をする機会を得ることが出来た。」という大統領の言葉に、文在寅前大統領とは違う、日韓関係正常化に向けた前向きな思いが伝わってきました。特に、歴史問題を国内政治に利用することには否定的だ、とする尹大統領自らの言葉を、これからの日韓関係に具体的に生かしていくために、私達両国の政治家の努力が問われます。

## ○アジアの平和と民主主義と日韓米

韓日議連の主な議員や SK グループやサムスン電子の社長など韓国の政治経済界との懇談の機会がありました。その席でも、経済や文化そして、特に安全保障の分野では、日本、韓国、それにアメリカとの友好関係をさらに深めていくことが求められると、双方から強調されました。経済や人の往来に歴史問題を絡めてしまってはダメ、それを切り離れた上で、歴史問題には、複眼思考、相手の立場を考えた上で、お互いが知恵を出し合うことが大切だと思うと発言しました。

韓国国会では、尹大統領の「国民の力」は、まだ多数をとっておらず、「ねじれ」状態が続くだけに、しばらく紆余曲折が続くと言われています。関係改善を決断しても実行に移せないのではないかという懸念です。韓国では 6 月に地方選挙が控えている中で、「日本側から尹大統領に対して、関係改善の具体策について、前向きの情報を出してくれれば、与党も力を出せるのですが」というような話が、韓国の親しい与党議員から切実な声として届いています。アジアの平和と民主主義の体制を維持していくためにも、日韓関係の修復が正念場だと思います。

